

令和 2 年 7 月 10 日現在

機関番号：32634
 研究種目：基盤研究(C) (一般)
 研究期間：2016～2019
 課題番号：16K03532
 研究課題名(和文) グローバル・イシューの規範理論にむけて

研究課題名(英文) Normative Theory of Global Issues

研究代表者

松井 暁 (Matsui, Satoshi)

専修大学・経済学部・教授

研究者番号：90238931

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,500,000円

研究成果の概要(和文)：本プロジェクトは、具体的な諸課題における規範的問題を整理・検討することを通じて、グローバル・イシューの規範理論のフレームワークを創造しようとした。とりあげた課題は、次の六つである。(1)グローバル市場、(2)政治空間の変容、(3)戦争と平和、(4)環境・生命、(5)主体・関係・アイデンティティの変容、(6)変革の方向。私たちは、グローバル・イシューの規範理論を体系的に構築するために、六つの課題そのものの個別的な規範理論でなく、これらの課題の相互連関を議論してきた。それによってグローバル社会を総体的に把握し、その将来像を導くような全体的な規範理論のフレームワークを獲得することができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、先端的な規範理論において、各領域の研究を・イシューの規範理論として統合し、その現実的な有効性に重点を置いて解明するという点で大きな価値を持つ。本研究は、規範理論の動向を人文・社会諸科学横断的に明らかにすることで、従来の学問分野の枠を越えた知を開拓した。また、規範理論の語り方それ自体をメタレベルから研究対象とすることで、諸規範の対立という現代社会の喫緊の課題に応える実践理論を構築するための土台を提供することができた。さらに現実問題への応答をも研究対象にすることで、現代科学のメインストリームである実証科学との理論的協働の可能性を広げることができた。

研究成果の概要(英文)：This project attempted to create a framework for the normative theory of global issues by organizing and examining normative issues on specific issues. The following six issues were addressed. (1) the global market; (2) the transformation of the political space; (3) war and peace; (4) the environment and life; (5) the transformation of actors, relationships and identities; and (6) the direction of change. In order to systematically construct the normative theory of global issues, we have discussed the interconnectedness of the six issues rather than the individual normative theories of the six issues themselves. As a result, we were able to grasp the global society as a whole and obtain a framework of overall normative theory to guide its future vision.

研究分野：社会思想

キーワード：グローバル市場 政治空間 戦争 環境 主体 変革 平和 アイデンティティ

1. 研究開始当初の背景

冷戦体制の崩壊とその後のグローバリズムの進展は、国際的次元においても新たな秩序構想としての「規範理論」の活性化をもたらしている。しかも、興味深いことに、そこにおいて80年代に国内政治を前提として展開されたリベラル・コミュニタリアン論争が、今度は、そのアリーナを国際政治に移して、拡大再生産されているように見える。いわゆるコスモポリタン・コミュニタリアン論争である。国際関係の地平で規範理論的アプローチを試みる両陣営を分ける分水嶺となるのは、境界線をめぐる問いである。規範理論がまず問うべきなのは、境界線によってインサイダーとアウトサイダーを分けることが、倫理的に正しいかというかなのである。

リベラルの規範理論が、総じて個人の価値や利益を出発点に置き、各人が選択した目標を追求する中立的な手段としての政治共同体に関心を向けていたように、コスモポリタニズムは、「市民」ではなく「人間」としての個人を起点にし、すべての人間を包摂するグローバルな共同体に関心を向けている。

しかし、コミュニタリアニズムの立場からすれば、普遍的な正義の構想というコスモポリタンの壮大な野心は、その行く手を文化的差異という障壁に遮られてしまう。道徳的知識の源泉に関するコミュニタリアンの議論は、コスモポリタンとは反対に、国家や共同体の境界線が道徳的に重要な意味を持つものであることを示そうとしている。こうしてわれわれは、一方の普遍主義に立つコスモポリタニズムと、他方の個別主義に立つコミュニタリアニズムという、国際社会において規範理論を考えようとする場合の二つの立場を得ることになる。

本研究は、このような論争の布置状況を踏まえて、グローバル化それ自体の是非にまでさかのぼってグローバル・イシューに規範理論がどのように応答することができるのかを考えようとした。

2. 研究の目的

本プロジェクトの目的は、この論争の枠組みを哲学的な次元で抽象的に再構成していくことである。とりあげた課題は、次の六つである。(1)グローバル市場、(2)政治空間の変容、(3)戦争と平和、(4)環境・生命、(5)主体・関係・アイデンティティの変容、(6)変革の方向。諸課題の関係について説明しよう。

(1)今日のグローバル化をもたらした最も大きな要因は、多国籍企業を主体とする資本主義のグローバルな展開である。これによってまず、世界の人々は経済的に直接連関するようになり、国内に限定された正義が国際的次元に拡張されるべきかいなかという問題が生じる。(2)この事態は、従来の国民国家を中軸に編成されてきた政治空間の再編成を不可避とし、上へは世界政府の可能性、下へはコミュニティへの権限移譲という可能性が追究される。

このような地球社会の基本的枠組みが変動することは、これまで人類が直面してきた諸課題、すなわち(3)戦争と平和のあり方、(4)エコロジー、生命倫理、(5)ジェンダー、エスニシティにも大きな影響を及ぼしており、これらの新たな規範的位置づけが問い直される。そこでこうしたグローバル・イシューそのものの変化を受け止めつつ、今後われわれはいかなる地球社会をめざすべきなのか、(6)変革の方向に関する有力な規範理論を掘り起こした。

ただし、グローバル・イシューの規範理論を体系的に構築するという本研究の目的からして、六つの課題そのものの個別的な規範理論でなく、これらの課題の相互連関を研究会で討議

することを通じて、あくまでグローバル社会を総体的に把握し、その将来像を導くような全体的な規範理論のフレームワークを獲得してきた。

3．研究の方法

本研究の方法は、これまで主に国内的問題を中心に展開してきた規範理論を、グローバル化という今日の情勢に対応しうるように、グローバル・イシューの規範理論へと発展させることであった。そのために、(1)グローバル市場、(2)政治空間の変容、(3)戦争と平和、(4)環境・生命、(5)主体・関係・アイデンティティの変容、(6)変革の方向といったテーマが検討された。平成28年度中に開催する会合で、各人の研究課題、研究の進め方、研究会の運営方法等について合意を形成した。その合意に基づき、以後2年間、毎月1回程度、研究会を催し、研究成果の報告とその共有に努めた。3年目は、共同研究の成果を具体的な形にするため、論文の執筆と相互調整のための研究活動が中心となった。

4．研究成果

本研究が取り組んだグローバル・イシューの規範理論については、個別の領域を扱った研究は見られるものの、一貫した問題意識と方法的態度をもって考究したものは、残念ながら極めて不十分であった。本研究は、このようないまだ十分には明らかにされていない先端的な規範理論において、各領域の研究をグローバル・イシューの規範理論として統合し、その現実的な有効性に重点を置いて解明した点で大きな価値を持つ。より詳しく言えば、本研究は、最終的に次のような成果をもたらすことができた。

規範理論の動向を人文・社会諸科学横断的に明らかにすることで、従来の学問分野の枠を越えた知の開拓につながった。

規範理論の語り方それ自体をメタレベルから研究対象とすることで、諸規範の対立という現代社会の喫緊の課題に応える実践理論を構築するための土台を提供することができた。

現実問題への応答をも研究対象にすることで、現代科学のメインストリームである実証科学との理論的協働の可能性を広げることができた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計21件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 松井暁	4. 巻 55
2. 論文標題 政治経済学を推進する国際運動(IIPPE)第9回大会に参加して	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 季刊 経済理論	6. 最初と最後の頁 85-89
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松井暁	4. 巻 増刊
2. 論文標題 マルクス主義哲学における規範理論の展開	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 経済セミナー 増刊 『されどマルクス』	6. 最初と最後の頁 84-88
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松井暁	4. 巻 40
2. 論文標題 人間本質としての労働と『資本論』における「労働日の短縮」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 季論21	6. 最初と最後の頁 250-261
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 伊藤恭彦	4. 巻 1139
2. 論文標題 ネット社会とグローバル公共圏の可能性	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 思想	6. 最初と最後の頁 122-138
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 坂口緑	4. 巻 73
2. 論文標題 NPO法施行20周年とこれからの社会	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 社会教育	6. 最初と最後の頁 30-34
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 坂口緑	4. 巻 39
2. 論文標題 誰がパイプラインをつなぐのか デンマーク・通学制国民高等学校の事例	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本生涯教育学会論集	6. 最初と最後の頁 73-82
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 田上孝一	4. 巻 53
2. 論文標題 非常勤講師と研究	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本の科学者	6. 最初と最後の頁 28-33
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田上孝一	4. 巻 12
2. 論文標題 マルクス哲学の可能性と限界	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 フラタニティ	6. 最初と最後の頁 40-45
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田上孝一	4. 巻 16
2. 論文標題 いわゆる「個人的所有の再建」について	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 東京電機大学 総合文化研究	6. 最初と最後の頁 127-130
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松井暁	4. 巻 54
2. 論文標題 角田修一著『社会哲学と経済学批判：知のクロスオーバー』	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『季刊・経済理論』	6. 最初と最後の頁 86-88
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 坂口緑	4. 巻 48
2. 論文標題 ポスト・コミュニタリアニズムの展開 『リベラル・コミュニタリアン論争』以後の位相	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 明治学院大学社会学部附属研究所『研究所年報』	6. 最初と最後の頁 57 - 64
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 松元雅和	4. 巻 21
2. 論文標題 「テロと戦う論理と倫理」	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『論究ジュリスト』	6. 最初と最後の頁 35-40
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松元雅和	4. 巻 17
2. 論文標題 「規範研究における実証研究の役立て方 反照的均衡を中心に」	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『政治思想研究』	6. 最初と最後の頁 98-123
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松元雅和	4. 巻 4
2. 論文標題 「分析系政治哲学における親科学的傾向? 反照的均衡とその行方」	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『ニクス』	6. 最初と最後の頁 208-219
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 施光恒	4. 巻 2017年
2. 論文標題 「愛国の経済左派が必要だ」	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『ボイス』(PHP)	6. 最初と最後の頁 68-75
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田上孝一	4. 巻 14号
2. 論文標題 『ゴータ綱領批判』におけるGenossenschaft概念について	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 東京電機大学総合文化研究	6. 最初と最後の頁 233-136
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松元雅和	4. 巻 28
2. 論文標題 カストロフィとしての戦争 正戦論における比例性原理の検討	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 立命館言語文化研究	6. 最初と最後の頁 151-169
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松元雅和	4. 巻 66
2. 論文標題 政治的悪の規範理論的分析 政治的リアリズムを中心に	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 関西大学法学論集	6. 最初と最後の頁 98-119
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 坂口緑	4. 巻 37
2. 論文標題 新しい市民大学の系譜と類型	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 日本生涯教育学会論集	6. 最初と最後の頁 13-22
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 坂口緑	4. 巻 9
2. 論文標題 地域のなかの「外」へ開く 新しい市民大学の事例から考える	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 月刊公民館	6. 最初と最後の頁 12 - 15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 坂口緑	4. 巻 846
2. 論文標題 公益活動と自発的結社 市民社会の30年を考える	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 社会教育	6. 最初と最後の頁 18-23
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計22件 (うち招待講演 1件 / うち国際学会 10件)

1. 発表者名 松井暁
2. 発表標題 資本主義的グローバル化とマルクス主義：世界は中心から変わる
3. 学会等名 マルクス生誕200年シンポジウム(専修大学)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Satoshi Matsui
2. 発表標題 Capitalist Globalization and Marxism
3. 学会等名 2018 IIPPE ANUAL CONFERENCE(Juraj Dobrila University of Pula, Croatia) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Satoshi Matsui
2. 発表標題 Marxism and Self-Ownership
3. 学会等名 The Grand Transition (University of Quebec in Montreal) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Midori Sakaguchi
2. 発表標題 Gruntvig's Influence on Japan
3. 学会等名 Lands of the Living Conference, University College of London, International Conference hosted by Samford University and University of Copenhagen (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 坂口緑
2. 発表標題 社会的統合と生涯学習
3. 学会等名 日本生涯教育学会第39回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Midori Sakaguchi
2. 発表標題 The new potential function of non-formal education in Nordic countries: a case of Daghojskole in Denmark
3. 学会等名 The 47th Congress of NERA, 2019.Mar.6-8, Uppsala University, Sweden (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 田上孝一
2. 発表標題 マルクス哲学の可能性と限界
3. 学会等名 マルクス生誕200年シンポジウム(専修大学)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 田上孝一
2. 発表標題 石塚フェティシズム論に学ぶ
3. 学会等名 歴史知研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 松井暁
2. 発表標題 「人間本質としての労働と『資本論』における労働日の短縮」
3. 学会等名 『資本論』150周年記念シンポジウム(武蔵大学)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 松井暁
2. 発表標題 Marxism and Ecology
3. 学会等名 The 12th Forum of World Association for Political Economy(Moscow University of Finance and Law) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 松井暁
2. 発表標題 森中定治「種問題とパラダイムシフト」へのコメント
3. 学会等名 日本生物地理学会第73回年次大会(東京大学農学部)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 坂口緑
2. 発表標題 「承認の教育」
3. 学会等名 日本生涯教育学会第37回大会（2017年11月7日）国立教育政策研究所社会教育研究実践センター（上野）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 有賀誠
2. 発表標題 「正戦論の臨界 最高度緊急事態から考える」
3. 学会等名 日本政治学会2017年度研究大会 於法政大学
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 松元雅和
2. 発表標題 "Ethics in Asymmetric Warfare: Why War Conventions Are Regularly Violated?"
3. 学会等名 Athens Institute for Education and Research, 15th Annual International Conference on Politics & International Studies (Titania Hotel, Greece), (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 松元雅和
2. 発表標題 "Trust, Deception, and the Myth of the Rational Voter"
3. 学会等名 CAPE Workshop: Diversity and Trust (Kyoto University, Kyoto) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 施 光恒
2. 発表標題 「新自由主義、ナショナリズム、保守主義 リベラルな「脱グローバル化」の探求」
3. 学会等名 政治思想学会研究大会（シンポジウムIII「保守の現在」）、2017年5月28日、於・早稲田大学
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 田上孝一
2. 発表標題 近代的常識の超近代的帰結 人格概念の再構成に向けて
3. 学会等名 歴史知研究会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 松元雅和
2. 発表標題 規範研究における実証研究の役立て方 反照的均衡を中心に
3. 学会等名 政治思想学会（招待講演）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 SAKAGUCHI Midori
2. 発表標題 Education of Recognition: A Case of Daghøjskole in Denmark
3. 学会等名 Nordic Educational Research Association 45th Congress（国際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Satoshi Matsui
2. 発表標題 Marxism and Three Types of Ethics
3. 学会等名 Radical Philosophy Conference 2016 (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Satoshi Matsui
2. 発表標題 Marxism and Three Types of Ethics
3. 学会等名 Seventh Braga Meeting on Ethics and Political Philosophy (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 松井暁
2. 発表標題 大屋定晴「グローバル資本主義と対抗運動：マルクス派の論理と諸運動派の倫理との対話をめぐって」へのコメント
3. 学会等名 経済理論学会第64回大会
4. 発表年 2016年

〔図書〕 計14件

1. 著者名 松井暁	4. 発行年 2019年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 888
3. 書名 社会思想史事典	

1. 著者名 伊藤恭彦	4. 発行年 2019年
2. 出版社 日本評論社	5. 総ページ数 260
3. 書名 グローバル・タックスの理論と実践 主権国家体制の限界を超えて	

1. 著者名 松元雅和	4. 発行年 2018年
2. 出版社 ナカニシヤ出版	5. 総ページ数 342
3. 書名 ロールズを読む	

1. 著者名 松元雅和	4. 発行年 2019年
2. 出版社 世界思想社	5. 総ページ数 256
3. 書名 人口問題の正義論	

1. 著者名 田上孝一	4. 発行年 2018年
2. 出版社 法政大学出版局	5. 総ページ数 352
3. 書名 原子論の可能性：近現代哲学における古代的思惟の反響(田上孝一・本郷朝香編)	

1. 著者名 田上孝一	4. 発行年 2018年
2. 出版社 社会評論社	5. 総ページ数 270
3. 書名 支配の政治理論(田上孝一編)	

1. 著者名 有賀誠	4. 発行年 2018年
2. 出版社 晃洋書房	5. 総ページ数 235
3. 書名 臨界点の政治学	

1. 著者名 伊藤恭彦	4. 発行年 2017年
2. 出版社 風行社	5. 総ページ数 230
3. 書名 タックス・ジャスティス 税の政治哲学	

1. 著者名 田上孝一	4. 発行年 2018年
2. 出版社 社会評論社	5. 総ページ数 132
3. 書名 マルクス哲学入門	

1. 著者名 田上孝一・松井暁	4. 発行年 2017年
2. 出版社 社会評論社	5. 総ページ数 319(147-159, 299-314)
3. 書名 権利の哲学入門	

1. 著者名 松井暁	4. 発行年 2016年
2. 出版社 知泉書館	5. 総ページ数 1390(323, 1083-1084)
3. 書名 哲学中辞典	

1. 著者名 田上孝一・有賀誠・伊藤恭彦・松元雅和	4. 発行年 2017年
2. 出版社 晃洋書房	5. 総ページ数 240(28-46, 60-74, 152-165, 166-179)
3. 書名 政府の政治理論	

1. 著者名 田上孝一	4. 発行年 2017年
2. 出版社 本の泉社	5. 総ページ数 152
3. 書名 環境と動物の倫理	

1. 著者名 田上孝一	4. 発行年 2017年
2. 出版社 本の泉社	5. 総ページ数 256(215-237)
3. 書名 マルクスと21世紀社会	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	松元 雅和 (Matsumoto Masakazu) (00528929)	日本大学・法学部・准教授 (32665)	
研究分担者	向山 恭一 (Sakiyama Kyoichi) (10235202)	新潟大学・人文社会科学系・教授 (13101)	
研究分担者	坂口 緑 (Sakaguchi Midori) (10339575)	明治学院大学・社会学部・教授 (32683)	
研究分担者	伊藤 恭彦 (Itoh Yasuhiko) (30223192)	名古屋市立大学・大学院人間文化研究科・教授 (23903)	
研究分担者	施 光恒 (Se Teruhisa) (70372753)	九州大学・比較社会文化研究院・教授 (17102)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	田上 孝一 (Tagami Koichi) (70646603)	立正大学・人文科学研究所・研究員 (32687)	
研究分担者	有賀 誠 (Ariga Makoto) (90531765)	防衛大学校（総合教育学群、人文社会科学群、応用科学群、電気情報学群及びシステム工学群）・人文社会科学群・教授 (82723)	